広島大学　学部・附属学校共同研究機構研究紀要
〈第39号　2011．3〉

学部教育実習生と院生のチームによる共同アクションリサーチを通した授業研究（２）

三村　真弓　深澤　清治　三根　和浪　桑田　一也
泉谷　正則　大橋美代子　向井さゆり　赤松　猛
森長　俊六

１．はじめに

文部科学省は，「近年の社会構造の急激な変化や学校教育が抱える課題の複雑・多様化に伴い，より高度な専門性と豊かな人間性・社会性を備えた力量ある教員」を求め，「高度専門職業人の養成に特化した専門職大学院制度を活用して，レベルの高い教員養成教育を行うことが必要である。」として，「大学院段階でより高度な専門性を備えた力量ある教員を養成する」ために教職大学院制度を創設した[1)]。これを受け，高度な教員養成を目指して，教職大学院や教職高度化プログラムの設置などのさまざまな試みが行われつつある。それらのプログラムにおいて特徴的な点は，実践的指導力をつけるための実習が重視されていることである。しかし，実践的指導力の根底に必要とされる，教科としての専門性とは何か，その専門性を向上させるには何が必要なのかは明示されてこなかったといえよう。

本研究者たちは，昨年度アクションリサーチという手法によって，実践と研究を統合して授業研究を行うことにより，教育実習生の教科指導力と，院生の授業観察力の向上を目指した[2)]。その結果，ある程度の成果を上げることができた。院生は当初，授業規律のような，教科外の問題に視点を当てていたが，しだいに教科の内容に関する問題に着眼するようになっていき，問題に対する対処法に関しても，的確なアドバイスができるようになった。実習観察後に行った院生へのインタビューから次の仮説が浮かび上がってきた。教科の専門性は，専門教育で培われるものを土台として，そのうえに教科教育学的な方法論が位置することによって，ようやく獲得されるものではないだろうか。

そこで本研究では，学部教育実習生の音楽科授業を，さまざまな音楽経験を有する院生がアクションリサーチすることによって，その実習生の課題を，教科外の教育方法に関するもの，音楽科教育方法に関するもの，音楽の内容・技能に関するものの３つの視点から分析し，考察することを目的とする。

２．研究の方法

学部３年生の教育実習生の授業を，大学院１年生10名が観察し，評価表に記入する。詳細は以下である。

観察時期：2010年９月14日～９月29日
観察対象とした音楽科授業：小学校４，中学校11
教育実習生：初等教育教員養成コース４名
　　音楽文化系コース５名
観察者の専門分野：音楽教育学６名
　　ピアノ３名
　　声楽１名

本研究では，観察者の専門分野や取得免許等を属性として判断する。観察者の属性は以下である。

表１　観察者の属性

観察者	専門分野（主とする楽器）	取得免許
A	音楽教育学（弦楽器）	小・中・高
B	音楽教育学（ピアノ）	小・中・高
C	音楽教育学（弦楽器）	小（見込）・中・高
D	音楽教育学（管楽器）	中・高
E	音楽教育学（ピアノ）	中・高
F	音楽教育学（ピアノ）	中（現職教員）・高
G	ピアノ	小（見込）・中・高
H	ピアノ	中・高
I	ピアノ	中・高
J	声楽	中・高

Mayumi Mimura, Seiji Fukazawa, Kazunami Mine, Kazuya Kuwata, Masanori Izumitani, Miyoko Oohashi, Sayuri Mukai, Shunroku Morinaga, Takeshi Akamatsu, Lesson study through collaborative action research with a team of undergraduate student teachers and graduate students (2).

観察者Ｆは，勤続23年の現職の中学校音楽科教員である。また，観察者Ｃと観察者Ｇは，大学院修了時に小学校免許を取得する予定である。

教育実習生の１つの授業に対して，３～５名で観察し，観察者は気付いたことを評価表に記入する。評価表の項目は，①教師の視点（発問・説明の仕方，板書，視線，声の大きさ，コミュニケーション等），②授業の視点（学習内容，授業構成，指導方法，学習活動の量と質等），③学習者の視点（関心・意欲・態度，到達度，授業規律等），の３項目である。昨年度の研究では，この評価表をもとに分析を行ったが，本年度の研究では，この評価表をもとにして，各授業ごとに，①良かった点，②問題点，③改善点・対策，の３項目について，観察者がレポートを作成した。本研究では，この観察者のレポートをもとに分析を行う。

３．分析と考察

（１）小学校音楽科授業の観察結果

表２は，小学校音楽科授業に関する授業観察者のコメントを紙面の都合上簡略化し，まとめたものである。

表２　小学校音楽科授業

授業	観察者	良かった点	問題点	改善点・対策
小①	B	・授業開始前から指示を出していたことは，授業規律を保つうえで効果があった。 ・児童の反応に対して多く対応していた。	**・授業内容についての理解が浅い。３拍子の強拍について正しく捉えていない。弱拍の２拍目からの歌い出しは１拍目を感じさせなければ揃わない。**	・１拍目が休みであることを伝えること。 ・ピアノを使うよりも，先生が歌ったり，ＣＤを聴かせたりして音を取るようにするとよい。
	E	・良いところをきちんと誉めていた。 ・児童がうるさい時，「先生と目が合っていますか？」などの言葉がけをしたり，深呼吸させて落ち着かせていた。 ・〇〇さんが悪いとは言わず，良い子のことを誉める。 ・児童が発言したとき，全員で意見を共有している。	**・前奏が弾けていないので，児童が歌の出だしでうまく入れない。** ・児童は休符について理解できていないので拍を感じて体を動かすことが難しい。 ・歌が十分に理解できていないのに，拍子を体でとりながら歌わせたため，歌が歌えていない。	・右手だけでもよいので，正しく入る練習が必要。右手（旋律）だけ弾いて，メロディを理解させることが何より大切である。 ・ＣＤの音量が大きすぎるために，授業者が「子どもたちは歌えている」と勘違いをしてしまっている。 ・きちんと歌の練習をしたうえで，リズムを体で感じさせることが大切。
	G	・児童の観察がよくできている。 ・子どもとのコミュニケーションが密に取られている。 ・その時その時の行動に対する評価が具体的にできている。 ・子どもが理解しやすいように，臨機応変に指導を考えて試みようとする。	**・音楽的な専門知識が薄い。児童からの質問に答えられない。３拍子を教えていたが，教えていた本人が３拍子を理解しているのか疑問に感じた。** **・ピアノの演奏技術が乏しい。伴奏はおろか，歌の旋律を間違えずに弾くこともできない。** ・全体に準備不足が感じられた。	・指導案どおりに授業が進まなかった時の対応の仕方がまずい。絶対外せないことをピックアップしてやるといい。 **・音楽的知識を深めること，教材研究をしっかりとしておくべき。** ・いちいち子どもに振り回されない。全体の流れが止まり，結果的に時間不足・時間延長になってしまった。
小②	B	・授業の全体像や流れをよく理解しており，スムーズに進んだ。 ・先生の発問などが的確なことが多く，児童によく伝わっていた。	**・本時のキーワードである「ふしの違い」が，授業のなかで意識されていないように感じられた。**	**・「ふしの違い」の根拠を明確にするスタッカートやスラー，休符など，客観的なものから考えられるようにするとよい。**「ふしの違い」を捉えるために，「なめらかな」や「歯切れのよい」などの形容詞を示せば，特徴を捉えやすく，理解が深まるのではないか。
	E	・子どもたちの発表が全員に聞こえているか，きちんと確認している。 ・鑑賞の際，子どもたちの発表について，どの部分がそのように聞こえるのか，自分でピアノを弾いてみせて，他の子どもたちがわかりやすいように工夫していた。 ・曲の感じが変化したと思う部分で挙手させ，音楽から理由を説明させようとした。 ・５線譜を図形で表し，子どもたちが変化に気付きやすいよう，工夫していた。	・声が小さく，指示が通りにくい。 ・授業者が期待する答が出るまで，違う児童に質問を投げかけていた。 ・「馬にのって」を聴いて，題名を考えるという問いだったが，それぞれが自分の思った答を述べて，それを記入したまま授業が終わってしまった。勝手なイメージだけでまとめてしまい，曲本来のタイトルを示さないままでは問題がある。	・子どもたちの感じ取り方や考えを大事にしていることはよくわかったが，子どものイメージを大切にするあまり，**曲そのものについての理解が十分ではなかったように思う。**児童の考えを中心に授業を展開していくことだけでなく，きちんと授業者の考えを提示することで，**曲本来の解釈や，どのような特徴があるのか**ということを理解させられると，より子どもたちが楽しく授業を受けられたのではないか。
	G	・子どもの意見をうまく導き出させている。さらに，ポイントを押さえ，子どもの意見から，それを次の意見に発展させることができている。 ・はきはきと明るい印象で話すことができている。	・黒板に提示してある**楽譜にミス**。 ・最後のまとめが薄い。**スラーとリズミックな部分にタイトルをつけ雰囲気の違いを味わわせかった**ようだが，「それぞれの曲にはそれぞれ特徴があります」と一言で締めくくってしまい，なぜ授業でこれを扱ったのかわからなくなってしまった。	・教科書の指導書に沿った授業のようであったが，個性が足りないように感じた。自分なりのアレンジをしてみるとか，何を身に付けさせたいのかという明確な目的と意志をもつべき。

授業	観察者	良かった点	問題点	改善点・対策
小③	A		・児童が歌った後の評価が，音楽的なものではなく，元気に歌えたかどうかを児童自身に問うものになっている。 **・音楽そのもの**，その指導法についての授業研究が浅い。 ・音楽の授業というよりは，演奏会を企画するというHRのような授業になっていた。 ・授業の筋が通っていないために，生徒の動機付けもできていない。	**・音楽の学習をさせるために，音楽的能力を養う目標を立てること。** ・教材の内容にに気づかせたい時に，まず自分の耳で聴いて，確認すること。 ・予想しない答が児童から返ってきた時に，それに反応し，評価すること。 ・この活動で本当に自分がねらっていることが学習できるのかどうかを深く考えること。 **・美しい音の響き，音楽の心地よさなど，音楽を美化するような言葉**を学習指導案で使っているが，それを自分の口で具体的に説明できるようにすること。
	F	・児童との会話がスムーズであり，落ちついた態度で接している。 ・活動の説明は丁寧でわかりやすい。	・授業者自身が音楽を苦手としているのではないか。児童には「CDの歌に負けんように」と声かけしたが，授業者の歌い方が楽しげでなく，元気がない。 ・視線が一定で，表情が乏しい。	・授業の２／３が役割決めで，学級会の授業のようだった。 **・音楽を聴く時「何について聴くのか」という音楽的なめあて**が，どの場面でもほしかった。はじめにDVDを視聴したところも「どこがちがうんかな？」という聞き方なので，児童は映像に気を取られ，演奏者の格好に反応していた。 ・話し合いの時，児童同士の距離は短く常にざわざわとした環境であった。あまりに態度の悪い児童にはときおり授業者が注意していたが，徹底しなかった。
	J	・いろいろな意味で態度が堂々としていた。	・「元気？」「CDに負けないように」など声かけはしているが，しゃべっている児童への注意はあまりない。 **・どういう点に注目して鑑賞すべきか**，視点を与えていなかったため，児童が感想を発表したときも，予想していた反応と違う感想が出たり，反応がいまいちだった。 ・感想の発表を聞くが，児童の行った内容を膨らませることはなかった。 ・リーダーへの指示に音楽的にまとめるというニュアンスが薄かった。 ・授業のほとんどが何かを決める時間に費やされ，音楽の授業というより，生活の授業のようだった。 ・全体的に，児童の私語のためのロスタイムが多かった。指示が聞き取れず，何をする時間か把握していない児童が多かった。	・児童とともに先生も歌唱していたが，歌っていない児童の近くに行って歌うなど，もう一工夫あった方がよかった。 ・グループごとに決めるパートの違いを説明しきれてないまま，なんとなく決まってしまった。→**このパートはリズムに特徴があるとか**，もっと音楽的なことでパート分けを決めた方がよかった。
小④	A	・鑑賞の際に，授業者も表情や姿勢などから聴いている感じを出していた。 ・授業の流れがよく考えられていて，何度も確かめながら鑑賞を行うことで，音自体をごまかすことなく扱っている。 ・授業規律に関する注意のタイミングや言い方などが適切。	・非常によくできた指導案となっているが，児童たちが自分の予想しない発言をした時に反応できない。 ・最後に授業者によるまとめがなく，結局今日の授業は何だったのかが曖昧に終わってしまった。	・ある質問に対して２つの異なった反応が返ってきた時に，それに対して何らかの評価をすべきである。 ・授業のまとめを述べること。今日の授業で何を学んだのか，がんばりはどうだったか，など。
	F	・視線，話し方よい。落ちついて明るい親しみやすい雰囲気をもっている。 ・授業の流れがスムーズである。どうもっていくかが頭に入っている。 ・児童の発言に対して，部分的にではあるが切り返しがうまい場面があった。	・指導案どおり何とか最後までもっていきたい，という気持ちが先に立ったのか，答を誘導している，教え込んでいる場面がよく見られた。	・ABAの形式を教える際，３年生なら，音楽を聴かせることによって気付かせることができるであろう。 ・チャップリンの映像がおもしろいので，本来の目的を見失っている児童がいた。映像を伴う場合は，さらなる発問の工夫がほしい。 ・使用する音源の音質に気を配りたい。また音楽を何度も早送りしていたのには児童からも苦情が出ていた。 ・発問があいまいな部分があった。**音と動きの関係**はどうなっているのか，聴くめあてをもてる発問の工夫がほしい。
	J	・授業者は指揮をする際，曲の雰囲気が変わる場面で指揮の振り方を変えるなどしたので，児童が楽しく歌えていた。 ・鑑賞する前に作曲者の肖像画を見せて，視覚的に捉えさせるのが効果的であった。 ・鑑賞する際に，聴く時の視点を提示し，板書したため，児童がその視点に関連付けて発言していた。 ・漠然とした児童の発言に対して「なぜかな？」と問いかけていたが，それによって音楽に関連した話に持ち込めていた。	・ハンガリー舞曲を音源のみで聴かせた時に，児童がすぐ集中力がなくなり，「長いね～」という児童さえいた。 ・ラデッキー行進曲を鑑賞する際，ふしの変わり目がなかなか頭出しできず，早送りをくり返したので，児童が混乱し，「先生，わかんなくなるからやめて」と言った。	・今回児童が取り組む「ふしに合った動きをつける」曲はラデッキー行進曲であったので，ハンガリー舞曲を聴かせるのは，導入として紹介程度でよかった。実際は，ラデッキー行進曲を聴く時間が足りなくなった。 **・場面について感じた特徴**を自由に記述させ，それを発表した際，音楽の表現でない感想があったが，それをどう他の児童にもわかりやすく音楽的な表現にもっていくのか，その技術には音楽的な専門性が必要だと感じた。

（＊　アンダーラインは，音楽科教育方法に関するものを表し，太字は音楽の内容と技能を表している。）

観察した小学校音楽科授業は計４つで，授業者はいずれも初等教員養成課程の学部３年生であり，授業観察者は音楽の院生３名ずつであった。各授業の観察には音楽教育学専攻と実技系専攻の両院生を入れた。

表中のアンダーラインを引いた箇所は，音楽科教育方法に関する気付きを表し，太字は音楽の内容・技能に関する気付きを表している。それ以外のところは，教科外の教育方法に関する気付きである。表２を見ると，小①から小③の授業の良かった点のほとんどが教科外の教育方法である。逆に，問題点や改善点では音楽科教育方法が多く，音楽の内容・技能も見られる。小④の授業は，良かった点にも音楽科教育方法が多く見られ，授業観察者のコメントからも良い授業だったことがわかる。院生ごとの違いはそれほど見られない。

（２）中学校音楽科授業の観察結果

表３は，中学校音楽科授業に関する授業観察者のコメントを簡略化し，まとめたものである。

表３　中学校音楽科授業の観察結果

授業	観察者	良かった点	問題点	改善点・対策
中①	B	・授業の全体像を把握しており，計画どおりに進んでいるように見受けられる。	・授業の細かい部分の指導がうまく構成されていないことが多い。 ・指示を出す順序や活動の順番など，より効果的に構成できる余地が残されているように思われる。	・箏の奏法を教える時には，直接弾いてみせる。 ・箏を交代で弾く時には，弾いていない人を参加させる手立てとして，相手の演奏を見て，注意点が守られているかをチェックしたり，何に注意して演奏するとよくなるかを伝えるなどする。
	C	・声が大きく，物怖じしない。	・生徒との会話のキャッチボールが少ない。 ・段取りが悪く，機材の準備，箏の準備が授業前にできていない。 ・授業開始時に教壇にいない。 ・説明する時に資料に釘付けになっている。 ・板書の位置が大雑把であったり，練習時間を指示しなかったり，箏の練習の交代の指示を忘れたりした。 ・鑑賞の際，前で生徒と一緒に聴き入り，後ろの生徒が内職をしているのに気付かなかった。	・箏には指示がない限り触れない約束をするべきである。 ・評価をする時に言葉を選ぶこと。 ・生徒の箏の習熟度が違いすぎるので，上手にグループを組むべきである。 **・授業者がしっかり箏に慣れていないため，流派の説明もないし節奏もない。また正しい所作での弾き方が生徒に指示できない。** ・何がしたいのかよくわからなくなっているので，焦点を絞るべきである。箏の初回の授業なので，曲に入る前にもっと**基礎を充実**させた方がいい。弾ける生徒を上手に使って，生徒同士で相互に教えさせてはどうか。
	E	・指示の声が後ろまできちんと聞こえている。 ・生徒が騒いで注意した際，きちんと静かになるまで待つことができていた。 ・進行に関しては，時間どおりにできていた。	・箏の演奏のDVDを見せている間，授業者は最前列で画面ばかり見ており，生徒の鑑賞態度を確認していなかった。 ・授業者の質問に対して生徒が口々に発言したため，どれが正解なのかわからなかった。挙手させて当てていない。 ・口で説明するだけではなく，実施に演奏したり構えて見せたりすることが大切である（座り方，爪の向きなど）。 ・生徒と目線が会わず，誰と会話しているのかわからない。	**・「箏についての基本的知識，奏法をおさえ，正しい奏法で演奏できる**」ということを，単元の目標として掲げていたが，ほとんど姿勢等の注意もせずに，演奏体験をさせることに徹してしまっていた。ほとんどの生徒が**爪の向きを正しくすることや，跳ね上げずに奏するということ**ができていなかった。もう少し生徒の様子などを観察したうえで，指導を進めていく必要があったように思う。
	G	・時間どおりに，指導案を進めようとしている。	・授業規律の徹底がなされていない。生徒は自由に箏を触っており，指導が行き届かない。 ・「時間がない」と生徒をやたらと急がせる。 ・発言の仕方がまずい。 ・机間巡視の不足。生徒の様子を見ていない。生徒がプリントを書き終わっていないのに次の説明に入ったり，隣を向いて雑談している生徒を見逃したりしていた。	・板書計画を練ること。 ・規律に対する指示を徹底すること（音を鳴らす時の許可など）。 ・生徒の反応をよく見ること。脱落しかかっている生徒に対するフォローをすること。 ・欲しい意見が生徒から出ない時の対応の仕方は，もう少し待つ姿勢を見せた方がよい。
	H	・親しみやすいしゃべり方で，生徒の注目を集めていた。 ・指導案が細かく作られていた。	・授業者の模範演奏がない。楽器の構造を説明する時に，プリントに頼らず，実物で示すべきである。 ・先生による実演がないまま，生徒が箏を奏し，グループで教え合うというのは恐ろしい話である。間違った演奏を互いに学びあっているように感じられる。	・指導案に頼りすぎている。**演奏を聴いて，問題点を把握し，即座に課題と練習方法を指摘するべきである。**このように，本来する必要のない活動や，必ずしも効果の上がらない方法でも，指導案中心のスタイルでは前もって決定しなければならず，実際の授業では，目的が「指導案どおりにこなす」ことになっている。つまり，授業が失敗したら，指導案が悪かったということになる。しかし，指導案の内容をすべてこなして，授業規律もしっかりしているにも関わらず，魅力のない授業がたくさんある。生徒が音楽を楽しんでいないからである。それよりは，**曲の分析をして，曲をよく知ること**に時間を使った方が，生徒は箏を弾けるようになる。
中②	B	・授業の流れがスムーズでテンポがよい。 ・前回の授業では内容が多すぎたが，今回は授業内容が適度に少なくなっており，１時間の内容量になっている。	・本時は「**音楽の要素**」を取り上げていたが，その手立てが明確でない。 ・意見を発表させる際に，挙手制にしていたが，発言する人は一部に集中していた。	・「**音楽の要素**」との関連では，活動の折に触れて意識させることが考えられる。たとえば，本時の登場人物を当てる授業では，**どのような要素からそれを選んだかに結び付けて**授業をすることが考えられる。また，答を出すことではなく，**要素から特徴を捉えること**を目的とするとよいのではないかと考える。また，意見を拾う際には，事前に生徒の意見を把握しておくことが重要であると思う。
	C	・生徒の声をよく聞いて反応を返している。 ・板書も考えられており，丁寧である。また指示も様々な所で，細かい所まで行われている。 ・時間が足りなくなると，指導案の一部を臨機応変にカットした。	・発問がまずいところがある。 ・指導案をせっかくカットして時間を稼いだのに，削った後の時間を有効に活用できなかった。 ・鑑賞中に生徒をよく見ていない。 ・クラスを３つに分けて歌詞を読ませるところに関して，ストーリーを把握させるだけならば，おおがかりなことをしなくても良いと思った。また，後の活動とのつながりも薄い。	・授業の流れをもっとよく考えるべきである。前後のつながり，例えば，歌詞の確認の後に，歌詞に関係した事をしてから，他のことをするべきである。 ・何を教えたいのかの中心をもっと見極めて，そこから広げていくとよいのではないか。
	E	・授業中ずっと笑顔だった。授業の雰囲気が良い。声は大きくはっきり出ていた。 ・前回に比べて，発問の仕方がよくなった。 ・教室の両端，後ろまで目を配っていた。 ・「魔王」鑑賞後，語り手，魔王，子どもの変化について，**何が変化したからそう考えたのか**，生徒の考えをきちんと聞いていた。 ・生徒の発表のあとに，再度その箇所の音源を流して，他の生徒が共有できるようにしていた。 ・伴奏系の変化について説明する際に，擬音語を用いて説明しており，生徒が認識しやすいように工夫されていた。	・ワークシートを書かせている時に，もう少し巡視が必要である。考える時間に書き込めず，他の生徒の発表を聞いて埋める作業をするだけの生徒が多くいた。 ・机がないことも影響しているが，何度か曲をくり返し鑑賞している間に，興味が薄れて横になる生徒もいた。前を向かない生徒もいた。それらの生徒に言葉がけができればよかった。 ・時間配分が指導案から大きくずれてしまい，授業時間をオーバーしてしまった。	・前回に比べて，生徒のことを把握しようとしたり，授業規律を守らせようとしたりと，授業の内容以外の面で大幅に良い点が増えたため，授業の進行もスムーズになっていた。しかし，予定していたとおりに進行しなかった際に，どこかの部分を削るなり，時間に気をつけながら臨機応変に対応をすべきだと感じた。 ・内容の指導についても前回の反省が活かされていて良かった。ただのクイズにならないよう，**なぜそのように感じたのか**，生徒の考えをきちんと発表させていたのも良かった。 「子ども」の旋律の説明で，毎回旋律が変化していることを説明していたが，**旋律自体は同じ音型で変化していないので，音が高くなっていること**に気付かせるよう指導できるとより良かった。
	G	・生徒をよく観察できている。 ・生徒から出た意見をもとに，次の課題へと発展させることができている。 ・全体的に問いかけが多い。導きたい答にたどり着けるように，質問を効果的に利用できていた。そのため，生徒も積極的に発言していた。 ・音源を流す時や範奏の時に，聴かせる目的や注意して聴いてほしいことを述べていた。	・進行に滞りを感じた。手間取るシーンがちらほらあった。音源を流す時，生徒の聴く準備が整っておらず，流すことを２回停止した。１度目は生徒に緊張が出て効果的であったが，２度目は雰囲気がだれてしまった。 ・机間巡視の仕方について，男子にばかり目がいきすぎている。 ・最後に映像を流したが，とても個性的な歌手の演奏で，そのインパクトが強すぎたため，登場人物の聴き分けができていたかどうかは疑問である。	・授業規律にとらわれすぎて，授業の流れが止まる傾向にある。授業規律の徹底か，スムーズな流れかをその場の状況に応じて判断することが求められる。
	I	・声が大きい。 ・冗談が言えるほど余裕がある。おもしろい。	・鑑賞の際に教室の後ろに立つなどの工夫があってもよい。 ・答が違っていた場合でも，１度は肯定するべき。 ・DVDとCDの歌い方に差異がありすぎるため，授業がブレている気がする。 ・感想を書くというのは，漠然としすぎている。	・授業がブレているため，教材をきちんと研究すべきである。DVDはだた注意をひくための時間稼ぎのように見える。 ・**シューベルトのすごさは何か**を説明すべきではないか。 ・生徒から出た発言をもっと突き詰めるべきである（**その特徴は何を表しているのか**など）。 ・時間に縛られているため，ただ指導案をこなすための授業になっている。目的が明確でない。柔軟さがない。

授業	観察者	良かった点	問題点	改善点・対策
中③	A	・合唱という表現の授業だが，授業規律は守られていた。	・表現の授業なので，教師のしゃべりだけでなく，**音楽的なアプローチ**が必要であると思うが，それが出てこなかった。 ・指導案の目標に**「自分の声部の役割を考え，歌に表現することができる**」とあるが，具体的な音楽的指示がないに等しかった。 ・表現の授業は，**音楽的な内容になる**のが理想だと思うが，この授業では感情を込めることが主軸になっていた。	・「**本当の音楽**」と「学校音楽」というものは異なるものであるということを実感させられた授業であった。教師は生徒を扱っているわけであるが，**音楽そのものを扱っていること**を忘れてはいけない。今回の授業の専門的な内容は，**各声部の役割を考えながら歌うこと**，**正しい発声法で歌うこと**であったが，これらは**いい演奏をする**ための手段であって，すべてはいい演奏をすることにあるということを肝に銘じた。
	D		・なんとなく時間をやり過ごすという姿勢がすべてに悪影響を与えていたため，良い点が見られなかった。授業者が声楽専攻であることを生かせなかった。	・目的を明確にした学びのある授業を行うべきである。しかし，今回の授業には何の学習があったのかがまったく見えなかった。**ブレストレーニング**，**発声**，PV鑑賞，パート練習，全体練習のすべてに目的や学習がなく，それを行ったことによって何かができるようになったという体験も得られなかった。これは，生徒に提示する目標を「思いをのせて歌う」というあやふやなものに設定してしまったことに起因すると考える。表現することは音楽にとって大切なことであるが，PVを見ることで何かを感じさせようとしたり，生徒のかすれた歌声について言及しなかったり，曲を通すことが目的であると捉えられても仕方がないような練習を行った点で，「思いをのせて歌う」ことを生徒に提示する目標にしたのは，楽曲をひいては授業を軽視した結果である。
	F	・遅れてきたり，落ち着きのない生徒達を相手に，積極的に大きな声で声かけをすることができていた。 ・最後まで落ちついた態度で，動じることなく進められていた。 ・大塚愛のPVを見せるなど，生徒の関心をひく工夫がなされていた。	・この授業で，**何がしたいのか「めあて」**が見えなかった。 ・生徒の雰囲気に授業者が飲み込まれてしまっているようだった。	・今日の目標を示していたが，**何がどう表現できれば，くみ取って歌えたことになるのか**が見えなかった。生徒にどうすればよいか考えさせるのも１つの手ではないか。 ・**ブレスワークや発声練習**も，だらだらとした雰囲気のなかで進められた。そのなかでも一生懸命まじめにやっている生徒を褒めてやりたい。こういう雰囲気だからこそ，まじめにやることの大切さやよさを小さいことでも探して訴えていくことが大切である。また，前に立つ授業者の態度ももっと真剣さがほしかった。 ・５時間の取り組みのうちの３時間目だったので，生徒も何となく歌えるようになり，なかだるみしやすい時期である。何となくパート練習をして，何となく合わせて終わり，という印象だった。もともとJpopの曲を編曲したものなので，そのイメージが強く，だらだらした歌い方になりかねない。その危機感をもって指導に当たらねばカラオケの延長になってしまう。そこで，どこか短い部分を決めて，その表現をどう工夫するか，生徒に考えさせたりパート別に歌わせてお互いに評価させたりするとよかったのではないか。 ・パート練習が何度もくり返されると，当然生徒も飽きてくる。**リズムやテンポなど音楽的な指示**を的確に押さえながら指導したい。 ・最後の合わせのとき，「今日の目標」がもう一度生徒に徹底されてから合わせられるとよかった。授業者は自信がなかったのか，**指揮をしながら出だしの指示**が的確にできなかった。これは事前にしっかり練習してほしい。
	I	・声が大きい。 ・知っている生徒の名前を呼ぶ。	・曲が難し過ぎる。 ・歌えるなら一緒に歌って引き出すべきである。 ・**音楽的な内容**に乏しい。	・**楽曲分析**が必要である。 ・**「正しい姿勢で」「声の出し方を変えて」**などは具体的な指示がないとわからない。 ・**発声**のドーミードは息を使わなすぎる気がする。 ・授業の最後だけでもきちんと揃えないとすっきりしない。
	J	・ピアノ伴奏で歌唱する際，生徒の間に入って歌唱の注意点を話すなど，緊張感を持たせるための工夫ができていた。 ・今日のポイントと言って，部分的にアカペラで歌唱させていた。ピアノなしでお互いの歌（声部）だけを聴きながら**ハモりのよさ**を実感できてよい。	・後半，ピアノ伴奏で歌唱する際，TTとして実習生が各パートに入っていたが，全然戦力になっていなかった。 ・発声練習の際，なぜか５拍子単位の拍をとっていて歌いづらかった。 ・発声練習の際，教師が生徒と同じ高さに居たため，生徒からは教師が見えず，指示が伝わっていなかった。また，教師が見えないためにだらけている生徒が目立った。	・TTは，もっと元気よく声を出して，歌いやすい雰囲気をつくるべきである。 ・**発声練習**も行き当たりばったりでするのではなく，やり方を考えていないといけない。 ・発声中であっても，姿勢が悪かったら，一旦音を出すのをやめて，姿勢を正したり，音だけを止めて指示するなどした方がよかった。
中④	A	・以前から課題であった話し方は落ち着き，良くなった。	・オペラの説明でカルメンや椿姫などのDVDを断片的に見せていたが単に紹介となっていた。活動の意図がわからない。 ・アイーダの鑑賞の際のワークシートに「どんな気持ちだったか」などを書かせていたが，**聴き取る活動**ではなく，想像する活動になってしまっている。 ・**知識的な内容**の詰め込みすぎで，**オペラのどこに良さがあるのか**が曖昧な授業となっている。 ・内容を詰め込みすぎたために時間がどんどん押していったが，それに対してその場で適切な対処ができない。 ・声のトーンが常に同じでどこを強調したいのかが不明。	・内容の詰め込みすぎは，自分が伝えたいことの要点がまとめきれていないということから起きると思う。時間内にできることは限られているのだから，**教材をもっと吟味する**必要があったと思う。自分が伝えたいことがはっきりすれば，生徒にしてもらいたい活動が決まるはずである。
	D	・生徒と**学習内容**を通して向き合うことができていた。その姿勢が，授業の細部に好影響を与えたように感じる。ワークシートの穴埋めの答を，ホワイトボードに貼り付けるという工夫も良かったが，自分の言葉で説明を加えながら進行することができていたことが良かった。また，言葉の選び方が適切であり，その内容もよくまとまっていたため，生徒の集中力を持続させることができた。	・時間設定が甘かった。本授業は，アイーダの学習としてはあまりにも未完成である。教えるべきことを教えられなかったら，授業として失敗であると言わざるを得ない。	・「オペラを知っていますか」といった抽象的な発問や，カルメン・椿姫のうわべだけの説明の部分で生徒の授業規律が乱れた点から，授業者が明確な意志をもちながら話すという行為が，授業の質を上げる要素の１つであると感じた。 ・授業者には，授業構成力が求められると感じた。教師は，１時間のなかの構成力とそのなかで行う部分についての構成力など，多岐にわたる展望をもつべきである。加えて，今目の前にいる生徒に，**何を最も教えるべきなのか**という判断力も必要である。
	F	・授業の流れ，つなぎ方がスムーズになってきた。 ・生徒のつぶやきをうまく使って，説明に活かしているところがあった。 ・生徒には響いていないが，ビシッと毅然とした態度で注意できていた。 ・導入に工夫が感じられる。	・板書の研究が必要である。書く位置，字の大きさ，漢字の書き順に問題があり，嘘字が見られた。 ・指導案の「生徒観」に，生徒に対するしり込みが感じられる。	・１時間で**オペラの構造について知識を深め，アイーダのストーリーと音楽の関連に気付くこと**は無理。中学生レベルで**オペラの何について気付いたり，感じ取ったらいいのか**をもう一度突き詰める必要あり。１時間しかなかったら，**総合芸術**としてオペラが存在すること，しかしそのなかでも音楽が中心で重要な役割を果たしていることを，聴取、視聴によって気付かせながらまとめていくので精一杯だと思う。 ・DVD視聴から**作曲者ヴェルディがどんな工夫をしたのか**と問いかける場面があった。また**登場人物がどんな気持ちで歌っていたか**を書かそうとした。生徒は視覚で判断するので，音楽でその様子を捉えたり考えたりは難しいと思う。 ・結局最後も３分くらいしか視聴できなかった。音楽で生徒に迫るためにはもう１時間はほしい。 ・授業者はオペラを熟知しているが，生徒は白紙の状態だということを念頭において説明する内容を考えていくと，ねらいもはっきりしてくるのではないだろうか。
	I	・授業者のキャラが個性的。	・発言が個性的すぎるため，理解しにくい。 ・オペラの勉強はおもしろくないし，興味がわかない。説明が長すぎて飽きる。	・**教材研究**が足りないのでもっとするべき。 ・背景に，**この曲に関する知識**が感じられないため，疑問がわかない。 ・**オペラとはどのような魅力があるのか**わからなかった。
	J	・鑑賞した後，生徒の漠然としたコメントに対して，授業者は**音楽的な表現**を補足して，掘り下げたコメントが返せていた。	・時間配分がちゃんとできていなかった。 ・あらすじを説明するときに，教師の一方的な説明になってしまい，生徒が騒がしくなることがあった。	・あらすじの説明の時に，生徒の意見を聞きながら進める，または騒がしくなったら話すのをやめる，などメリハリを付ける必要があった。

中学校の観察授業は計11あったが，紙面の都合上，そのうち，院生が５名で評価している授業４つを選択した。各授業の観察者のなかには，いずれも音楽教育学専攻の院生３名と実技系専攻の院生２名が含まれている。

中①の授業は，中学１年生を対象とした「箏に親しみ，日本伝統音楽を味わおう」という題材の授業である。良い点は，ほとんど教科外の教育方法である。改善点のところはほぼ音楽科教育方法に関する内容（アンダーライン）であり，しかも音楽の内容・技能（太字）にも問題があることがわかる。つまりこれらのことは，授業者が箏の演奏技術に長けていないことを示している。音楽科教育方法に関する課題は，箏の技能が授業者に習得されれば，解決する内容である。

中②の授業は，中学１年生を対象とした「情景を表現している音楽の要素について考えよう」という題材であり，シューベルト作曲「魔王」を教材としている。良い点には，音楽科教育方法に関する内容が含まれ，問題点には，教科外の教育方法の課題が散見される。改善点からは，音楽の要素（内容）をいかに聴取させ（技能），情景と結び付けさせるかがキーポイントであることがわかる。前者は音楽の内容・技能であり，後者は音楽科教育方法に関するものである。

中③の授業は，中学２年生を対象とした「歌詞の意味を理解し，豊かに表現する」という題材の合唱の授業である。授業観察者Ｊ以外の評価は厳しい。音楽科教育方法に関する課題も多いが，最重要課題として指摘されているのは学習内容の不在すなわち音楽的内容の欠如である。授業者自身が声楽専攻であるにも関わらず，自身の専門性を活かせなかったことは非常に残念である。

中④の授業は，中学３年生を対象とした「オペラの魅力を感じよう」という題材の鑑賞の授業である。授業者は声楽専攻であり，オペラにも詳しい。評価は，観察者によって分かれている。観察者ＤとＪは，授業者の専門的知識の発揮を評価し，観察者ＡとＦは，内容の詰め込みすぎによって授業の目的が不明瞭になり，内容が欠落したことを指摘している。良かった点の項目で評価しているＤとＪも，時間配分の失敗を指摘し，一方的な説明を批判している。一方観察者Ｉは，授業者の専門的知識も認めていない。

（３）授業観察者の属性による特徴

今回の授業観察者は，表１からもわかるように，さまざまな属性を有している。今回のアクションリサーチを実施するのに先立ち，観察者の属性によって観察の視点が異なるのではないかという仮説を立てた。したがって，音楽教育学専攻の院生と音楽実技専攻の院生の両者によって観察チームを編成した。しかし結果からは，顕著な差は見られなかった。音楽教育学専攻の院生はすべて，大学入学時は音楽実技が主専攻であって，長年楽器の専門教育を受けている。一方，音楽実技専攻の院生も教員免許を取得しており，自身も教育実習経験をもつ。つまり，全員が音楽の専門教育を長年受けてきた経験を有し，音楽科教育の経験ももっているのである。

そのなかでもいくつか特徴的な傾向が見られた。第１は，経験豊富な現職の音楽科教員である観察者Ｆである。中③と中④に見られるＦの改善点・対策の内容は，実に豊富で具体的である。学習者の心理と１時間の授業の流れが確実に把握できている発言である。第２は，観察者ＨとＩである。中①の授業者に対するＨのコメント「指導案に頼りすぎている。演奏を聴いて，問題点を把握し，即座に課題と練習方法を指摘するべきである。…指導案の内容をすべてこなして，授業規律もしっかりしているにも関わらず，魅力のない授業がたくさんある。…曲の分析をして，曲をよく知ること」や，中②の授業者に対するＩのコメント「シューベルトのすごさは何かを説明すべきではないか」，中③の授業者に対するコメント「楽曲分析が必要である」，及び中④の授業者に対するコメント「オペラとはどのような魅力があるのか」などが示しているのは，彼らが受けている専門教育で必要とされている内容であり，また彼らが求めている理屈では語れない音楽の価値であろう。

４．おわりに

学部教育実習生の音楽科授業のアクションリサーチを通じて，小学校音楽科授業と中学校音楽科授業とでは音楽の内容・技能の求められ方が若干違うこと，中等教育においては，音楽の専門的な内容や技能があれば，音楽科教育方法的な課題はある程度解決できることが明らかとなった。

引用文献

１）平成17年12月８日中間報告「今後の教員養成・免許制度の在り方について」の「Ⅱ．教員養成・免許制度の改革の具体的方策」序を参照。

２）三村真弓，深澤清治，三根和浪，森長俊六，増井知世子，原　寛暁，赤松　猛，桑田一也，山田哲平「学部教育実習生と院生のチームによる共同アクションリサーチを通した授業研究（１）」『学部・附属学校共同研究紀要』第38号，広島大学学部・附属共同研究機構，2010，pp.75－80。